

FFAG研究会発足の一案内

拝啓 新緑の季節となりましたが、皆様にはますますご清栄のことと存じます。

さて、この度「FFAG研究会(別称FFAG倶楽部)」第一回を下記の要領で開催することはごびとなりました。皆様のぜひとものご参加をお願いいたします。

ご承知のようにFFAG加速器(Fixed-field Alternating Gradient:固定磁場強集束型加速器)は、1953年大河千弘先生によりその原理が發明されました。しかしながら、多くの技術的困難のため具体的な実用機の建設にはいたっておりませんでした。半世紀を経てようやくこれらの問題が克服され、原理実証機の成功、実用機の開発、さらには加速器駆動原子炉のための加速器建設が始まり、各方面から注目を集めるとともに大きな発展が期待されております。

FFAG加速器は、その名がしめすように、サイクロトロンの固定磁場とシンクロトロンの強いビーム集束性という両者の長所を合わせもつ、従来ない特長を有した加速器です。また、運転の容易さ、コンパクトなサイズという点からも、素粒子・原子核物理のような基礎科学のみならず、医療、エネルギー、環境等、様々な方面への応用が期待される汎用性豊かな加速器であります。

このように多くの可能性をもつFFAG加速器ではありますが、具体的な応用分野、ひいてはいかに社会的貢献に資するかについては今後の大きな課題です。そこで、生まれも育ちも純国産のFFAG加速器を文字通り汎用性豊かな加速器として今後これをどのように育て生かしていくかについて、皆様とご一緒に議論・研究する場として、本「FFAG研究会(FFAG倶楽部)」を創設することといたしました。

本会は、その名のとおりFFAG加速器ならびにその応用に興味をもち、なによりもFFAG加速器を育てようという同好の方々の集まりです。会設立の趣旨は、「FFAG加速器の汎用性を広く開拓するとともにFFAG加速器を育てることを目指す」ということに尽きるものです。したがって、小難しい会則はありませんし、入会も随時御自由です。研究会の活動としては、月1度の定期的会合を予定しております。ここでは、加速器応用について各方面で活躍の現場の専門家の方々のお話をうかがうことも併せて考えております。第一回は、左記の要領で行う予定です。皆様のぜひともの御参加をお願い申し上げます。また、ご関係の方々へもご案内戴けると幸甚です。よろしくお願い申し上げます。

敬具

平成十四年四月一日

FFAG研究会会長

井上 信(前京大原子炉実験所所長)

同会世話人代表

柴田徳思(高エネルギー加速器研究機構・

放射線センター長)